

36年前

ソ連の圧力によって  
封印された幻の名作

樺太 1945年夏

# 氷雪の門



1945年8月20日

樺太で失われた

9人の電話交換手の乙女たちの命

これは時代に圧殺された真実の物語



皆さん

これが最後です

さようなら

さようなら…



二木てるみ  
鳥居恵子  
岡田可愛  
藤田弓子  
栗田ひろみ  
木内みどり  
北原早苗  
若林豪  
黒沢年男  
南田洋子  
千秋実  
三上真一郎  
藤岡重慶  
赤木春恵  
七尾伶子  
浜田光夫  
見明凡太郎  
柳谷寛  
織本順吉  
鳳八千代  
久米明  
丹波哲郎  
田村高廣  
島田正吾

総指揮：三池信 小倉寿夫 / 製作：望月利雄 守田康司 / 企画：望月利雄 高木豊 / 原作：金子俊男 / 監督：村山三男 / 脚本：国弘威雄  
撮影：西山東男 / 照明：野村隆三 / 美術：木村威夫 / 音楽：大森盛太郎 / 録音：安田哲男 / 助監督：山野辺勝太郎 新城卓 / 編集：エディター編集室  
配給：太秦 / 提供：「氷雪の門」パートナーズ アジア映画社 太秦株式会社 / 協力：「氷雪の門」上映委員会 【1974 / カラー / DV / 119分】  
文部省選定 青少年映画審議会推薦 日本PTA全国協議会特別推薦 後援：北海道新聞社 稚内市 ©「氷雪の門」上映委員会

# 夏1945年 太樺 幻の名作「氷雪の門」36年ぶりの劇場公開!!

## 終戦時の樺太で起きた9人の乙女の悲劇

語り継がなければならぬこの史実

空前のスケールで描かれた平和への願い



現在ロシア領サハリンと呼ばれるかつての樺太。一九四五年八月十五日終戦の混乱の中、この地で多くの日本人が死んでいった。八月六日、二発目の原爆が広島に、八月九日、二発目が長崎に投下された。同じ日にソ連は「日ソ不可侵条約」を破り、満州に、そして樺太に侵攻してきた。「氷雪の門」は、ソ連の侵攻作戦のただなかで、最後まで通信連絡をとり、若い生命をなげうった真岡郵便局電話交換手九人の乙女の悲劇を描いた真実の物語である。

一九七四年、製作実行予算がなんと五億数千万円を超えた大作として話題を呼んだ「氷雪の門」。戦闘シーンを陸上自衛隊が全面協力し、樺太に似た地形を求め、北海道全



域をはじめ、御殿場、丹沢、大山、常盤炭鉱地にオープンセットを組み立ててロケを行った。原作は金子俊男の「樺太一九四五年夏・樺太終戦記録」。脚本は「幕末残酷物語」の国弘威雄、監督は「あゝ海軍」の村山三男、撮影は「早池峰の賦」の西山東男、美術は木村威夫。特に、少ない資料の中から樺太の町を作り上げた木村威夫の美術は圧巻である。

公開中止。ソ連の圧力？

当時の新聞資料によると、劇場公開時、ソ連大使館の抗議により急ぎよ公開が中止となり、波紋を呼んだ。



そして、残されたフィルムをデジタル化し、二〇一〇年、ついに劇場公開となる。

日本映画の中で樺太を扱った映画はない。「氷雪の門」こそ、樺太の史実と事実を残した唯一の映画なのである。

### 「氷雪の門」

北海道稚内市・稚内公園内に、失われた樺太を遙かに望んで、厳しい風土に耐えて生きぬいた樺太民島を象徴するかのよう建つ女人像。



「みなさん、これが最後です。さようなら、さようなら…」

なぜ彼女たちは死を選ばねばならなかったのか

一九四五年夏、樺太西海岸・真岡町。太平洋戦争は既に終末を迎えようとし、戦禍を浴びない樺太は、緊張の中にも平和な日々が続いていた。しかし、ソ連が日本への進撃を開始。真岡郵便局で働く電話交換娘たちは、ソ連軍の進攻と、急を告げる人々の緊迫した会話を、胸の張り裂ける思いで聞いていた。



八月十五日終戦後、ソ連軍が樺太に侵攻。八月二十日、真岡町の沿岸にソ連艦隊が現われ、艦砲射撃を開始し、町は戦場と化した。逃げまどう人々。鳴りやまない電話。彼女らは最後まで職場を

離れようとはしなかった。取り残された九人の乙女たち。たった一本残った回線から聞こえてきた最後の言葉は…。

「戦なき世を作る為に!!」

新城 卓

『氷雪の門』は公開直前にソ連の圧力によって葬られた幻の名作。監督をはじめ、総指揮、プロデューサー、脚本、編集、美術等、この作品に関わった諸先輩たちは無念の思いを抱いたまま鬼籍に入った。当時、助監督で参加した私はまだまだ勉強不足の若造だった。クランクインの前に、樺太の資料と生き残った人々の真実の叫びを聞き、「この史実を伝えなければならぬ!」という気持ちを抱きながら奮戦した。それから三十年後の二〇〇四年、『氷雪の門』の貴重なフィルムが残っているのを発見した。それは再び産声を上げるのを待っていたかのようにだった。

フィルムをデジタル化し、映画「氷雪の門」上映委員会を立ち上げ、この映画の持つ力で、世論を喚起し、世界の平和を訴えたいと、上映活動に取り組んだ。今回の劇場公開により、より多くの全国の方々に観てもらいたい。

新城 卓(しんじょう・たく)  
「氷雪の門」の助監督。  
一九四四年生まれ。沖縄出身。  
一九八三年「LOKINAWA BOSS」オキナワの少年」で監督デビュー。「秘祭」俺は、君のためにこそ死にいく」